

指下主おぼし

一 此處より先なるは

此處より先なるは

さるべきよしあり

さるべきよしあり

さるべきよしあり

さるべきよしあり

さるべきよしあり

さるべきよしあり

さるべきよしあり

さるべきよしあり



Large handwritten characters and marks on the right page, including a prominent '7' and other illegible characters.

院といふは深人の道にまゝ。毎日晨朝入念の如く  
九とくといふ三層の場に入る悟り甲一の蓮の花を  
おとしこく。錫杖長刀りきふらん。こゝろをゆるぎ  
の薬もきく。いづりのまへは。如常の如く。  
ふちわかひ。このまへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
よけといふ。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
我を。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
を。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
い。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
は。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
そ。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
あめくさん。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
の。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
は。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
は。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
と。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
く。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
い。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
い。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。

い。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
い。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
い。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
い。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。  
い。まへに。くさるる。まへに。くさるる。まへに。













一河の舟をのりてしるるにどしどし地獄舟よ  
やのく〜  
報身。悔を〜  
の〜  
み〜  
身。至。善。を。ん。を

はのめ〜  
舟。を。修。行。を。し。る。に。ん  
あつ〜  
ち。や。し。〜

善賢人々を

〜  
お。と。ぬ。を。わ。ち。あ。ん  
活。動。を。た。た。か。す。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

〜  
あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

〜  
あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

〜  
あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。

〜  
あ。ま。り。の。あ。ま。り。の。あ。ま。り。



ちにはまゝなるに中世に死の目的があるが、その下  
 のほうに、この世の中をいかに楽しむか、いかに心を  
 楽しむか、その勢をこころから楽しむことをいふ。この  
 世に生きることをいふ。その世の中をいかに楽しむか、  
 その世の中をいかに楽しむか、その世の中をいかに  
 楽しむか、その世の中をいかに楽しむか、その世の中  
 をいかに楽しむか、その世の中をいかに楽しむか、その  
 世の中をいかに楽しむか、その世の中をいかに楽しむ  
 か、その世の中をいかに楽しむか、その世の中をいかに  
 楽しむか、その世の中をいかに楽しむか、その世の中を  
 いかに楽しむか、その世の中をいかに楽しむか、その世  
 の中をいかに楽しむか、その世の中をいかに楽しむか、

中世の世の中をいかに楽しむか、その世の中をいかに  
 楽しむか、その世の中をいかに楽しむか、その世の中  
 をいかに楽しむか、その世の中をいかに楽しむか、その  
 世の中をいかに楽しむか、その世の中をいかに楽しむ  
 か、その世の中をいかに楽しむか、その世の中をいかに  
 楽しむか、その世の中をいかに楽しむか、その世の中を  
 いかに楽しむか、その世の中をいかに楽しむか、その世  
 の中をいかに楽しむか、その世の中をいかに楽しむか、







てんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん  
まをひかへてひかへてひかへてひかへてひかへてひかへて  
ひかへてひかへてひかへてひかへてひかへてひかへて  
ひかへてひかへてひかへてひかへてひかへてひかへて  
ひかへてひかへてひかへてひかへてひかへてひかへて  
ひかへてひかへてひかへてひかへてひかへてひかへて  
ひかへてひかへてひかへてひかへてひかへてひかへて  
ひかへてひかへてひかへてひかへてひかへてひかへて  
ひかへてひかへてひかへてひかへてひかへてひかへて

中四 十王 付北殿 拾系一殺の

さるほどに 敵多かりしを 討ちて 退きしを  
またも 追ひしに 討ちて 退きしを

頼りひらくせんぶやもはなわぶら法をてりてみろ  
あしうめごとしありうらのさぐりふらひてあまら  
あしうめれとせしむるやまごころとせしむるれはひ  
おやせまるるうらの地獄乃軍らうらとせしむるあはれ  
文徳意城より未だ地獄の道とせしむらうらとせしむる  
愛のうめとせしむる天教乃とせしむるあはれとせしむる  
あはれとせしむるつらつらつらつらつらつらつらつら  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ

あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ  
あしうめらうらとせしむるあはれとせしむるあはれ











ていせい入るのばくちやうまの物ゆはまをいふと  
して河邊房と名勝負其母房善法房高僧天  
高房が軍勢をかたけつたは月沙羅花佛のみを  
見せしむる人目をまぼらしきうへい安易をせ男を  
あみだやまよこしてつる報を現かを想追捕使  
みしむるにたの候秋多程落せま方のの寸して一  
切の物をもよそるまはつて地を荒らして  
はるかに大なる鉄城をるるまをいふとつるまはつて  
らるるまのまはつてつるまはつてつるまはつてつるま  
はつてつるまはつてつるまはつてつるまはつてつるま

そのこころひくる勝美界一のなるなる  
 ありて百勝のこころ佛ととらめりて  
 乃法佛美意を教にのくまうせし  
 色びうそを親香界に地意を教にのくまうせし  
 ぬわらうとそを親のひくるそを勝地に  
 ともひし地すの形をさしき形らまひ  
 くの申其まはるく東あふを  
 よこひのくまうそをさしき形らまひ  
 乃智乃成ともいへるそをさしき形らまひ  
 乃申一の八美乃まきありそらまひ  
 の珠妙乃大日もうとまはるそをさしき形らまひ

乃智乃成ともいへるそをさしき形らまひ  
 乃申一の八美乃まきありそらまひ  
 の珠妙乃大日もうとまはるそをさしき形らまひ


明曆四年戊戌  
正月廿三日  
名臣

高橋忠房  
史板  
廿

337

高橋忠房史板終

1000



110X  
475  
1